



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 279
June
2016

トピックス

国際会議への参加

台風委員会 第11回防災
部会への参加

関係機関との防災協力推進

「震災対策技術展」大阪に
おける広報活動

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2016

●国際会議への参加

台風委員会 第11回防災部会への参加

アジア防災センター（ADRC）は、国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP: United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific）、世界気象機関台風委員会（WMO/TC: World Meteorological Organization / Typhoon Committee）および韓国国家防災研究所（NDMI: National Disaster Management Research Institute）

が主催する台風委員会第11回防災部会（WGDRR : Working Group on Disaster Risk Reduction）に参加しました。会合には主催者をはじめとして、中国、マレーシア、ベトナム、ラオスおよび香港やマカオといった中国の特別行政区の代表、気象部会（WGM: Working Group of Meteorology）、水文部会（WGH: Working Group of Hydrology）の役員など約40名が出席し、以下の通り4日間開催されました。

< 1日目：5月24日 >

「沿岸複合災害早期警戒システムのための標準作業手順の共同策定事業（Synergized Standard Operating Procedures (SSOP) for Coastal Multi-Hazards Early Warning Systems）」の継続実施（SSOP-II）や「仙台防災枠組」の優先行動及び成果と目標を達成するための台風委員会の事業方針等について、TC事務局と長年顧問を務めるWMOやUNESCAPの有識者による基調発表とそれらを踏まえた議論が行われました。

< 2日目：5月25日 >

WGDRRメンバーによるカントリーレポートと、WMO、UNESCAP、WGM、WGHの役員らによる諮問部会（AWG: Advisory Working Group）が、並行して開催されました。

カントリーレポートでは参加各国で発生した最近の災害についての報告や災害情報の収集・報告・提供システムの構築などの取組みについて発表が行われました。アジア防災センターは、最近の我が国の台風・豪雨に起因する土砂災害について、兵庫県の避難警報に関する取組みに焦点を当てて発表したほか、アジア防災会議での最近の議題、さらに、4月に発生した熊本地震についても基本的な情報を発表しました。

AWGでは、前日の議題について、引き続き議論がなされました。

< 3日目：5月26日 >

午前中は、WGDRRの「7つの重要な成果項目（7 Key Result Areas）」の見直し、防災が分野横断的課題（Cross-Cutting Issue）であることを踏まえた今後のWGDRRの年次行動計画（AOPs: Annual Operating Plans）や予算について、議長であるNDMIによる説明に続いて、議論が行われました。午後は、開催地である蔚山を拠点として、世界的に事業を展開する「現代グループ」の造船所と自動車製造工場を見学しました。



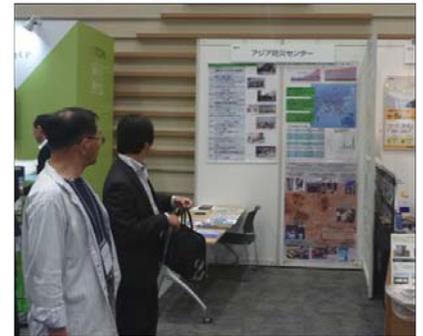
続き

< 4 日目 : 5月27日 >

TC事務局による今回のWGDRRの総括が行われるとともに、10月にフィリピンで開催予定の統合部会に向けてAOPsの見直し等の議論を深めていくことが確認されました。

●関係機関との防災協力推進 「震災対策技術展」大阪における広報活動

6月2日と3日、ADRCは大阪で開催された「震災対策技術展」に出展しました。会場では、防災に係る関連企業や団体、研究機関などの関係者が10,000人以上来場しました。ADRCは会場内にブースを設置し、アジア地域における災害発生状況の紹介や、稲むらの火の啓発事業などについて冊子を用いて説明を行いました。個別では、アジア地域において発生した際の大規模災害の様子や、メンバー国のネットワークについて質問を頂き、多くの方にADRCへ関心を持って頂く貴重な機会となりました。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。